

第10号

日本共産党区議会議員

Japanese Communist Party

安藤たい作 ニュース



日本共産党品川区議団が07年度予算要望書を提出

地方自治の精神、忘れちゃったの!?

品川区の来年度予算の編成時期になりました。さる11月17日、わたくし安藤たい作は日本共産党区議団の一員として、「2007年度予算要望書」を区長に提出する行動に参加しました。

この「要望書」は、来年度の品川区の予算を名実ともに「命と暮らしを守る地方自治体本来の役割を果たす」ことのできる編成にしようするために、一〇五項目にわたり具体的な予算要望項目をまとめたものです。日本共産党は毎年提出しており、当日は区側から濱野区長のほか、本間助役・新美企画部長も対応しました。連名提出者である日本共産党品川区委員会からは、後藤均品川区委員長も出席しました。

要望の一〇五項目は大きく分けて「暮らし・福祉」「街づくり・防災」「教育」「中小企業対策」「区民参加の区政運営」「若者雇用」の分野に分かれています。貫かれているものは「地方自治の精神に立ち返れ」ということです。

「地方自治法」には地方公共団体の役割は「住民の福祉の増進を図ることを基本にする」とあります。さらに言えば、国を挙げて侵略戦争に突き進んだ戦時中の経験を踏まえ、戦後憲法には「地方自治」という章が別に立てられました。国の政治とは独立した地方自治の重要性がわざわざ強調されたのです。

ところが今の品川区は「限られた財源の中、少ない費用で最大の効果をあげるのが自治体の使命」「それは国の仕事。国の議論を見守る」と呪文のように繰り返します。国の冷たい政治が吹き荒れる中、住民の命と暮らしを守る立場に乗り出す姿勢がありません。先の戦後地方自治の二つの基本精神とも相反します。当日の区長の対応も同じものでした。

品川区には、今回の要望書を積極的に生かすよう切に望みたいと思います。



漫画：安藤たい作

安藤たい作プロフィール '74年 宮城県仙台市生まれ32歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

安藤たい作ニュース は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。